

OMSとは？Shopifyに必要？



「OMS（オーエムエス）」とはOrder Management System の略称「注文管理システム」です。

OMSの機能としては大きく4つあります。

- ①商品マスタ管理、②注文管理、③販売可能数管理、④顧客管理

この主要機能を見て、「shopifyで事足りるのでは？」と感じる事業者様も多いはず。

OMSを必要とするのは、「shopify含めた複数の販売チャネルで同一商材を販売する」段階です。

shopifyでは楽天など他販売チャネルの注文データも連携できますので、shopifyでは連携困難な

販売チャネルへの多角的運営を行わない限り**OMS機能はshopify標準の管理機能で足りる**といえます。



「WMS（ダブルエムエス）」とはWarehouse Management System の略称「倉庫管理システム」です。

WMSの機能としては大きく4つあります。

- ①商品マスタ管理、②注文管理、③倉庫内作業ステータス管理、④倉庫内在庫管理

この主要機能を見て、「shopifyで事足りるのでは？」と感じる事業者様も多いはず。

WMSを必要とする場面は、大きく4つあります。

- A.受注分を複数名で手分けして出荷する場合、B.受注分を1名で日を分けて出荷する場合、
C.販売商材が20SKU程度を超過、D.shopifyでは販売を継続しつつ棚卸を行う場合

ここの場面は次のページで詳細記載致しますが、概して**WMSが必要となるのは「売上規模**

=販売商材が拡大した・させる」場合といえます。



A.受注分を複数名で手分けして出荷する場合

B.受注分を1名で日を分けて出荷する場合

注文分を当日1名で対応できない場合、どこまで送り状を印刷した？どこまで配送業者に荷渡しした？と不明な点が各所で発生します。WMSでは前ページ記載③の倉庫内の作業ステータスを記録・更新することで、ミス防止に大きな効力を発揮します。

C.販売商材が20SKU程度を超過、

販売商材 = 管理する在庫SKUが拡大すると、どこに保管したか？管理する必要があります。

「ロケーション」という表現で倉庫内の保管住所を管理します。「青のボールペン」は「A-1」のロケーションに保管といった運用をすることで的確・効率的に出荷作業を行いつつ、お預かりしている商材の紛失も防ぎます。

D.shopifyでは販売を継続しつつ棚卸を行う場合

資産確定のため、年に1回もしくは半年に1回程度、倉庫在庫の実カウントを行い実在庫数を確認する（棚卸）場合があります。在庫量により実カウントに要する時間は異なりますが、倉庫への入荷・出荷をストップして、棚卸を実施します。ただ近年ではshopify上での販売可能数と倉庫での実在庫数を非同期することで販売をストップせずに棚卸を行う事業者様も増加しています。



OMSを必要とするのは「shopify含めた複数の販売チャネルで同一商材を販売する」段階

WMSが必要となるのは「売上規模＝販売商材が拡大した・させる」場合

OMSとWMSでは必要とする基準が全く異なるということが、ご理解頂けましたでしょうか？

事業者様の計画や状況によりOMS/WMSのどちらを先に着手すべきなのか？も異なりますが

導入後、自社で活用すべきか？システム含め他社に任せ外部委託を活用すべきか？といった軸も

判断指標にすべきです。

OMSは導入後も自社運用を行うケースが多いのに対し、WMSは専門的すぎるといった点からも

システムだけでなく物流・ロジの運用含め他社委託を選択される事業者様が増えています。



Shopify向けフルフィルメント
「スピードロジ」では倉庫・物流
以外にも多様な知見を基に
貴社事業の運用をご支援致します



スマホでも

<https://transcosmos-ecx.jp/service/speedlogi>